

【小学校・中学校・義務教育学校用】

令和4年度学校評価 中間評価

達成度（評価）	
A	十分達成できている
B	おおむね達成できている
C	やや不十分である
D	不十分である

学校名	嬉野市立嬉野中学校
1 前年度 評価結果の概要	<ul style="list-style-type: none"> <li>・学力向上では、西部型授業が定着し、さらに課題解決に向け意図的・計画的に「書く活動」「話し合う活動」等を仕組んだ結果、思考力・判断力・表現力が向上した。家庭学習習慣の定着にまだ課題があり、取組を強化する必要がある。</li> <li>・不登校対策では、家庭や関係職員、関係機関との連携を密にとり、誰かどこかつながりをもつことで学校との関係を保持し、その結果不登校を改善することができた。情報の引継ぎを丁寧にし、継続して支援を行う必要がある。</li> <li>・いじめ対策では、観察やアンケート等で覚知したあとの対応を、迅速かつ丁寧にすることができた。SNSいじめやコロナいじめなど様々ないじめ問題への対応が必要だが、今後は特にSNSを介したいじめの予防に力を注ぐ必要がある。</li> <li>・ICT活用教育では、授業やオンライン学習でのタブレット端末の活用を進めることができた。しかし、ネットワーク環境に課題があり、授業での活用が大きくは進まなかった。今後は多方面に働きかけ、ネットワーク環境の改善をする必要がある。</li> </ul>

2 学校教育目標	<p>夢に向かう颯爽とした生徒の育成 ～「嬉中まなび力」「嬉中しぐさ力」「嬉中きずな力」～</p>
----------	---

3 本年度の重点目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1 学習意欲……個に応じた指導やICT活用教育の推進を図り、学習意欲の向上に努める。</li> <li>2 生活習慣……家庭との連携を強化し、基本的な生活習慣の定着を図る。</li> <li>3 人権意識……様々な価値観や違いを認め合う人間関係作りを推進する。</li> </ol>
------------	--

4 重点取組内容・成果指標	中間評価	5 最終評価	
---------------	------	--------	--

(1)共通評価項目				中間評価		最終評価		学校関係者評価		主な担当者
評価項目	重点取組	成果指標 (数値目標)	具体的取組	進捗度 (評価)	進捗状況と見直し	達成度 (評価)	実施結果	評価	意見や提言	
●学力の向上	●全職員による共通理解と共通実践	●学力向上対策評価シートに示したマプランの成果指標を達成した教師85%以上	・嬉野メソッドの授業を徹底する。 ・授業に適切な言語活動を設定する。	B	多くの教師が適切な言語活動を取り入れ、分かりやすい授業の実践を行っており、「授業はわかりやすい」と答えた生徒は92.3%いる。今後はさらに、身に付けさせたい力を明確にした授業を目指す。	・	・	・	・	・学力向上コーディネーター ・研究主任 ・校内研教科等部会
	○学習意欲の向上	○「計画的に家庭学習をしている」生徒80%以上	・家庭学習について個に応じた指導をする。 ・ICT機器を活用し、わかる授業づくりを行う。	B	「計画的に家庭学習をしている」生徒は74.7%であったが、各学年とも自主学習ノートの取り組みで個に応じた課題を精選して出すことで家庭学習の習慣のさらなる定着を目指す。	・	・	・	・	・学力向上コーディネーター ・研究主任 ・校内研学習習慣部会
●心の教育	●児童生徒が、自他の生命を尊重する心、他者への思いやりや社会性、倫理観や正義感、感動する心など、豊かな心を身に付ける教育活動	○「自他の生命や人権を尊重している」生徒90%以上	・人権・同和教育、道徳等において人権の視点に立った授業や体験活動を行う。 ・コミュニティスクールを活用し、地域との連携を充実させる。	A	・沖縄慰霊の日の集団読書、平和集会等で人権の大切さ思いやりをもった人との関わり方について指導しており、「自他の生命や人権を尊重している」生徒98.2%いる。 ・1年市田焼給付体験や2年職場訪問、うれしガーデン定植など工夫し、地域と連携することができた。	・	・	・	・	・人権・同和教育 ・道徳教育 ・学校行事企画 ・コミュニティスクール
	●いじめの早期発見、早期対応体制の充実	○「いじめを受けていない、いじめをしていない、いじめを見逃していない」生徒5%以上	・「いじめ」に関する定期的な指導と注意喚起を行い、予防と撲滅に努める。 ・情報リテラシーについての知識を高め、SNSの危険性への意識を高めさせる。	B	・「いじめを受けていない、いじめをしていない、いじめを見逃していない」生徒87.8%であった。小さなトラブルもいじめとして捉え、今後も対応をしていく。 ・SNSの利用アンケートをとり、生徒・保護者へ啓発の文章を発行し、夏休み前に生徒へ指導を行った。	・	・	・	・	・生徒指導 ・教育相談
	○基本的なしぐさに基づいた、挨拶と毎日の丁寧な掃除	・「挨拶をすずんでいる」生徒85%以上 ・「掃除を丁寧にしている」生徒85%以上	・挨拶の目的と意味を知らせ、場に応じた挨拶の仕方を指導する。 ・掃除では、年度初めに掃除の仕方を身につけさせ、継続的に指導を行う。	A	・生徒会で毎朝挨拶運動を行っている。その結果、「挨拶をすずんでいる」生徒93.3%だが、校外で自ら挨拶することにはまだ課題がある。 ・「掃除を丁寧にしている」生徒96.8%であったが、本来の目的の「きれいにする」までにはもう一歩である。	・	・	・	・	・生徒会
●健康・体づくり	●「望ましい食習慣と食の自己管理能力の育成」	●「健康に食事は大切である」と考える児童生徒95%	・生徒会と連携し、給食時の放送等で給食への関心を高める。 ・学校栄養職員と連携し、必要な栄養について知識を深め、自己の健康管理を意識させる。	A	・給食に用いられている食材や調理方法、料理に関する知識を、毎日給食時に放送で読み上げたり、配膳前に掲示した。 ・学校栄養職員による給食指導と栄養バランスの良い食事についての講話を6回、給食の時間に取組んだ。 ・「健康に食事は大切である」と考える児童生徒は97.5%であった。	・	・	・	・	・給食指導・食育
	○望ましい生活習慣の形成	○「時間を意識して、生活を送っている」生徒85%以上	・家庭での学習時間や生活リズムについて振り返らせ、生活の見直しにつなげる。	A	・「時間を意識して、生活を送っている」生徒は93.7%であった。引き続き、生活記録表を記入し、生活時間や学習時間の見直しを行う機会をつくる。	・	・	・	・	・研究主任 ・校内研生活習慣部会
●業務改善・教職員の働き方改革の推進	●業務効率化の推進と時間外勤務時間の削減	●教育委員会規則に掲げる時間外勤務時間の上限を遵守する。	・定時退勤日を適切に設定する。 ・部活動休養日を適切に設定する。 ・効果的・効率的な業務推進をする。	B	・毎週水曜日を新たに定時退勤日に設定した。「定時退勤日」を実践している教員71.4%、「部活動休養日」を適切に設定している教員100%、「業務を効率的に行うための工夫をしている」教員80.9%であった。 ・全職員の9月までの時間外勤務の平均時間数が、昨年度より5時間程度減少した。	・	・	・	・	・管理職

(2)本年度重点的に取り組む独自評価項目				中間評価		最終評価		学校関係者評価		主な担当者
評価項目	重点取組内容	成果指標 (数値目標)	具体的取組	進捗度 (評価)	進捗状況と見直し	達成度 (評価)	実施結果	評価	意見や提言	
○特別支援教育の充実	○教員の専門性と意識の向上	○「特別支援教育の理解を深め、個に応じた指導・支援に努力している」教師85%以上	・支援を要する全ての生徒に対して、個別の支援計画を作成し活用する。 ・UDを意識した教室環境や授業の仕方等、生徒の状況に配慮した指導を共通実践する。	A	・「特別支援教育の理解を深め、個に応じた指導・支援に努力している」教師95.2% ・夏休みには、発達障害のある生徒への合理的配慮について職員研修を行った。 ・支援の必要な生徒の後学級の支援計画をたてる。	・	・	・	・	・特別支援教育
◎キャリア教育の充実	◎将来の夢や進路について、自分の考えを持つことができる生徒の育成	◎「将来の夢や進路について、自分の考えをもっている」生徒80%以上	・キャリア教育を推進し、自分の将来について考える機会をつくる。	B	・「将来の夢や進路について、自分の考えをもっている」生徒73.3%であった。 ・学活の授業などを通して、進路学習を行い、自分の将来について考える機会をつくる。	・	・	・	・	・進路指導

●…県共通 ○…学校独自 ◎…志を高める教育	
5 総合評価・ 次年度への展望	<ul style="list-style-type: none"> <li>・</li> <li>・</li> <li>・</li> </ul>